

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300134		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム千葉園生		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町406-88		
自己評価作成日	平成28年11月22日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出行事に力を入れ、近隣の良環境を活かし、散歩や買い物に外出する機会を増やしている、また、遠出の外出も月に1度以上行っている。ボランティアさんも多く来所され、毎週2回と不定期で踊りや歌等のボランティアが行われている。また、医療面では連携をしているDrと日々メールでのやり取りが行え、迅速に体調不良等の対応が行える。法人の行事として他ホームと合同で合唱コンクールや運動会を年に各1回実施している。面会時間の設定をしているが、できる限り柔軟に面会や外出、外泊の対応を行っている。例えば当日の外出や外泊も基本は可としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国に250棟のグループホームを運営し、ハード・ソフト面において充実したノウハウを有している。千葉県で22棟目として開設された2年目のホームである。広く明るいリビングと車いすでの出入りもし易い間口の広い居室、家族や地域との交流も図れる広い相談室や職員休憩室など、入居者・家族・職員に配慮した設計のホームである。経験豊かな新ホーム長の下、研修やOJTを通して職員一人ひとりの傾聴能力や気付き能力の向上を図りながら、「利用者の尊厳を守る介護、その人らしく豊かなシルバーライフを送り関わるすべての人が幸せになれるホーム」を目指してチームワーク良く個別ケアを充実させていくことが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時の運営理念の唱和を含め、会議や適宜スタッフの見えるところに掲示をし、意識するように促している。	法人の3つの理念とそれを実践するためのホームの運営理念を会議や申し送り時に唱和するとともに、常に目に触れる所に掲示し共有出来るようにしている。特に入居者一人ひとりの言葉に耳を傾け、信頼関係を築き、尊厳を守る介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園や消防訓練に参加をすることで、地域との関わりを増やしている。また近隣の保育園の園児の受入もおこなっている。	近隣の保育園の運動会に参加、ホームで歌の披露などの交流。地域の消防訓練に参加。傾聴ボランティアやウクレレ演奏の披露など地域との関わりを意識し、地域との交流が少しずつ広がりつつある。	自治会と婦人会に加入しているとのことであり、今後夏祭りや色々な行事や認知症カフェへ参加するなど地域との交流機会を更に増やしていくことが期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にお住いの方から認知症ではないが介護で困っている等の相談があった場合は必ず対応をする。また、認知症カフェ等にも参加をしていく予定である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度実施をし、事故報告を含め意見交換を行っている。また、家族会の開催要望等もお聞きし新たな意見交換の場を設ける為工夫をしている。	安心ケアセンター職員、民生委員、地域の方や家族、入居者が出席して2ヶ月に一度定期的に開催している。運営推進会議の趣旨、ホーム内人事、入居者状況、活動や事故、研修報告などを議題とし、出席者から活発な意見や質問が出され、運営などサービス向上に生かそうとしていることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点等があれば、行政にすぐ報告をし指示ももらっている。また、会議の報告等を提出している。	高齢者施設課を毎月のように訪問し、報告事項やユニットオープンに関する事等、担当者から適切な助言を頂いている。安心ケアセンターの方は毎回運営推進会議にも出席頂く等、協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年に3回以上実施し、絶対禁止をしている。	「虐待と身体拘束ゼロ」に向けての研修を3ヶ月に一度実施し、職員に研修振り返りアンケートを提出させている。2ヶ月に一度「虐待・不適切ケアと身体拘束」チェックリストで各ユニットでの状況を職員輪番制で報告させるなど、職員一人ひとりの意識を高めると共に互いに互いに注意し合える仕組みを作り、徹底を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を年に3回以上実施し、絶対禁止をしている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を年に1度実施し、スタッフにはその研修の報告を記入してもらい、また研修報告の反省を次回の会議時に実施している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全ての文面を読み、項目ごとに質疑応答の時間を設けるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3月に1度、運営推進会議の実施を行い、意見交換をする場を設けている。また年に1度アンケートを実施し日頃の支援の疑問等を表せる機会を設けている。	「千葉園生通信」で健康医療、行事、入浴状況、ケアプランや様子などを写真入りで毎月家族に報告しており、家族が詳細な情報に基づき意見や要望を言っていたり易くしている。面会時や運営推進会議で意見等をお聞きするほか、法人が毎年家族アンケートを実施して満足度を確認するとともに自由に意見や要望を出せる機会ともし、ホームでの改善に役立てるようにしている。運営会議議事録に多くの意見や質問が出されていることが確認できた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度アンケートを実施し、意見を表す機会を設けている。また、日々個別に打ち合わせをする時間を設け課題の早期解決に努めている。	法人が毎年職員アンケートを実施し、意見や提案をする機会としている。出された意見や提案はホームにフィードバックされ、課題の早期解決に繋げている。全体会議の他、随時の個人面談や日頃の声掛けなど職員からの意見や要望を聞く機会を多く作り、2ユニットオープンに伴う業務内容や申し送り方法などに職員意見を反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度給与査定を実施し、個々の業務を的確に評価をしている。また年に1度全社での会議を実施し会社の意向等を伝える場を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修は基本的にすべてのスタッフが参加できるように配慮をしている。また社内でも入社時や昇格時に研修を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの連絡会があり適宜開催が行われ情報交換の場が作られている。また月に1度は他グループホームを訪問し情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にアセスメントの実施を行い、ご本人の希望に沿った支援が行われるように努めている。また、できる限りご本人が生活していた環境に近づけるようお部屋の作り等も考えご提案をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にアセスメントを実施するうえでご家族様の意向を聞き、柔軟に対応を行えるよう関係づくりに取り組んでいる。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>訪問マッサージや訪問歯科等も含めご本人に今必要な支援を話し合い早期に導入を心掛けている。また必要ではないサービスや必要なタイミングを考えご提案をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様同士が話し合える環境を作り、時には喧嘩をする場面もあるが必ずスタッフが近くで見守りタイミングを見て介入をしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様が来所しやすい環境づくりを行い、夜遅くや朝早くの面会も可としている。急ぎの泊等も可能な限り可としている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の自宅に他の入居者様と一緒に訪問し、過去の生活も懐かしんでいただく外出行事を行っている。</p>	<p>入居時に友人や知人に「愛の家千葉園生」に住んでいることをお知らせ頂くことをお勧めしている。他の入居者と一緒に自宅を訪問して昔を懐かしんでいただく外出行事を行っている。元の教え子の方たちと公民館でのお茶会でお手前を楽しんだり、外出行事でアウトレットにお連れしたり稲毛海岸のカフェで家族とともにお茶したり、電話を自由に使えるようにしたり、便箋を用意して手紙をいつでも書けるようにするなど、馴染みの関係を継続して頂けるよう支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングの席の配置等を考え孤立せず関わりあえるように配慮をしている。また趣味等で話が合う入居者様同士がうまく関わり合えるようにスタッフが介入し支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入居場所に面会に行ったり、定期的にご連絡をしたり施設に遊びに来られたりと良好な関係を築いている。また支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時だけでなく都度会話の中で本人の意向を傾聴し即時実行が行えるようにスタッフ内で情報共有を行い支援をしている。	入居者の言葉に傾聴し、言葉にならない表情や様子の観察も大切にして、入居者の意向や希望の把握に努めている。全体会議やユニット会議で毎回職員に周知している。出来る限り具体的な表現で「介護記録」に記録することを心がけ、居室担当者の意見も取り入れてアセスメントの見直しを行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を読み取り、集団生活でのあり方、特に個別での対応を考え、一人一人が過ごしやすい生活の場を提供できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの見直しや生活でのストレスを把握できるようにユニット内での会議を月に1度以上行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を用い現状の問題点や希望の共有を図り、毎月のお手紙にも課題等を掲示し即時に計画変更等が行えるように支援をしている。	毎月のケアカンファレンスでは、計画作成担当者が作成したケアプラン原案について、職員からの意見や主治医、訪問看護師の意見も取り入れ、見直しが行われている。毎月の家族への「通信」にはケアマネジャーによるケアプランの達成状況や居室担当者のコメントが報告されている。「健康管理表」には短期目標・サービス内容が添付され、職員が常にケアプランを意識してサービスを提供できるように工夫している。	現在、介護記録や職員からの意見を取り入れて、ケアマネジャーが毎月モニタリングを実施しているが、今後は各居室担当者なども参画したモニタリングの実施を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報や介護経過表、申し送りノートを活用し、日々の課題や気づきの共有を図っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時間や外出外泊の時間の規定を緩和しつつでもご家族様と交流が図られるように柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや地域のお祭り、運動会にも積極的に顔をだし、地域に根ざした支援が行えるように配慮をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様にかかりつけ医の選定をさせていただいている。今までのかかりつけ医をご希望の場合は継続での医療面の支援を依頼し、希望に沿えるように配慮をしている。	月2回の往診医の受診時には、症状の変化や医療面での相談事項などを事前に「往診伝達事項」に記入し、入居者が確実に受診できるように支援している。受診にはホーム長が立会い、クスリの変更や注意事項などを「伝達事項」に記入し、職員への情報共有を図っている。往診医との連携やケアの充実により、過剰な薬の投与を減らしていくことを推し進めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とのやりとりが行えるように訪問看護師と記録のファイルを読み合わせを行っている。また、スタッフの申し送りノートにも目を通していただき情報共有を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療従事者との情報共有は都度行い、迅速に伝えられるようにメール等も用い対応をしている。また、入院時には1週間に1度は必ずご面会に行き、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にご家族様に終末期のあり方を伝え関わる全てのスタッフが同じ目的をもってご支援が行えるように説明を行うとともに、終末期のあり方を場面場面で相談支援を行っている。	「重度化した場合の対応にかかる指針」、「看取り介護にかかる指針」の入居者・家族への説明時には、終末期のイメージを想定した具体的事例での説明が行われている。重度化した際はメール等で往診医と連絡をとり、入院などの迅速な対応が図られている。看取り介護研修を実施し、「看取りは利用者が中心である」との共通認識を職員間で共有している。往診医、訪問看護師との連携による看取り体制が整備されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の研修は都度行いまた年に1回会議で研修を行うことで実践力を身につけられるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や被災時の対応を研修や訓練で行い、スタッフが被災時に迅速に対応が行えるように配慮をしている。また、新人スタッフには積極的に講習や研修に参加をしてもらえるように配慮をしている。 5/8	消防計画に基づき、入居者・家族も参加の年間2回の消防訓練実施や毎日の防火用自主点検の徹底、近隣職員を優先した緊急連絡網の作成など災害時の対応が図られている。消防訓練終了後には訓練時の実施状況、反省を報告書にまとめ今後の対策につなげている。地域の避難訓練に職員が参加し地域との連携を図っている。今後は入居者も訓練に参加することを検討中である。	2ユニットの夜勤職員の役割分担を明確にし、2階からの避難方法、自立歩行・車いすの入居者の誘導など実践的な夜間火災を想定した訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮を行い、声掛けやお名前の呼び方等ご本人が他の方にわからぬようにインシヤルトークを用いて配慮をしている。	ホームの運営理念である「尊厳を守る介護の実践」を常に意識してケアにあたっている。トイレ誘導時の声かけや入浴時には羞恥心やプライバシーに配慮して支援している。これまでの生活歴を大切に、漢字が得意で文章作成に関心のある入居者にはメモ用紙の準備や事業所の資料整理の手伝いなど、入居者に満足と達成感を感じてもらう支援を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や洋服等の選定が行えるようにさせて頂いたり、お菓子を選んで頂いたり、自己決定の機会を増やしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別のレクリエーションや散歩の時間等を作り楽しく穏やかにマイペースに生活が行えるように決まった生活リズムを作らないように心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に毎日の衣服の選定やマニキュアの施工やヘアカラー等いつまでもおしゃれを気にしていただけるように配慮をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食のレクリエーションや施設内での食べ放題の実施等楽しくお食事ができるようなイベントを定期的に行っている。	生活リハビリの一環としてレベルに合わせて野菜切りや盛り付け、配膳、下膳、皿洗いを手伝っている。食材や調味料などの買い物や料理の得意な入居者が最終の味付けを行うなど積極的に食事の準備に関わっている。2か月に1度、和食レストランや回転ずし、ファミレスで好みのメニューの外食を楽しんでいる。また、ホーム内での食べ放題バイキングや寿司・天ぷらの実演など入居者が楽しめる食事イベントを定期的に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の形態、提供方法、時間等考慮し、個別で食事変更が必要な場合もご家族様の協力を仰ぎながら対応をさせて頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新規ご入居時には無料の口腔内のチェックや歯科検診を行い、常に清潔保持が行えるように口腔ケアには力を入れて取り組む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のお声掛けの際に、座位から立位への練習や車いすから手引き歩行への変更のための練習を行い、ご本人が自身の行動で排泄が行えるように配慮をし、支援をしている。	ユニット毎に男性用便器つきトイレ1か所を含め、3か所設置されている。車イス対応の広いトイレにはつかまりやすい位置に手すりが設置され、自動点灯装置や呼び出しベルの設置により、入居者が混乱せずに安心して使用できるように配慮されている。出来る限り自立歩行でのトイレでの排泄支援を行っている。その生活リハビリにより車いすの入居者が杖歩行で一人でトイレを利用できるまでの成果につながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や乳酸菌食物の購入を定期的に行っている。また、お薬に頼るだけでなく便秘改善のため腹部の温めも行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の気分や体調を考え入浴ができるタイミング、例えば午前や午後だけでなく夕方や夜等を考えなるべく気持ち良く入浴が行えるように支援をしている。	入浴は週2回を原則としているが、職員の勤務時間の調整を行い、朝一番や就寝前などの希望にも応じている。広い浴室にはつかまりやすい位置に手すりが設置され、2方面介助が可能な浴槽で職員の介助により安心・安全な入浴が行われている。また浴室、更衣室の温度調整には特に配慮し健康管理に努めている。入浴拒否の入居者には、「温泉に入りましょう」などの声かけや同性介助などによりさりげなく入浴に誘っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に休息がとれるようにお部屋のベット等のセッティングは都度行うように配慮をしている。また、夜間も居室の温度やナースコール等の設置を行い、安全面の配慮を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理表を作成し服薬の内容が変更された際にはお薬情報の共有も含め迅速に対応をしている。また必要でない薬があれば、ご家族様、先生、看護師と打ち合わせをしながら減らしていくよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が昔好んで行っていたことやお仕事としていたことを把握し、その活動が継続して行えるように公民館に出向いたり、スタッフのお手伝いをしていただいたりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩にショッピングセンターやコンビニを活用している。また、月に1度は遠方への外出を心掛け日々感じる事の難しい景観や季節の変化を感じて頂いている。 7/8	天気の良い日は車いすの入居者も一緒に、近くのスポーツセンターなどへの散歩をしている。入居者の希望を取り入れドイツ村や花のミュージアムで季節の花を楽しんだり、近くの神社への初詣や稲毛海岸へ出かけるなど毎月1回は遠出の外出行事を行っている。駅前のコンビニへの買い物やアウトレットでのショッピングなど生活感を味わえる外出支援も図られている。	五感の刺激し認知症状の進行防止や、いつまでも歩ける筋力維持のためにも、勤務体制の業務内容などを工夫し日常的な散歩の回数を更に増やしていく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際はできる限りご本人に欲しいものを購入していただくよう、金銭の受渡し含め支援を行っている。欲しいものがあれば購入ができるようにおこずかいの管理もやっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はケアスタッフ経由で自由に使えるように配慮をしている。手紙等もいつでも書けるよう便箋等を用意し必要に応じてご提供をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを飾り付け、共有部分は最低でも1日2回の掃除を行っている。気温や湿度を常にチェックし加湿器の設置や空間除菌の設置を行っている。	明るく落ち着いた雰囲気のリビングには、入居者が飾りつけたクリスマスツリーや習字作品、七夕や誕生会での入居者の明るく楽しい表情の写真も掲示されている。リビングの窓際や廊下にはソファ、椅子が配置され、疲れた時いつでも休息できるように配慮されている。ベランダにはトマトやゴーヤなどの野菜や花が栽培され季節感を味わっている。家族の意見を取り入れ、玄関に花やオブジェを飾り和の雰囲気を醸し出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考慮し、仲の良い入居者様同士がお話のしやすい環境づくりを行っている。また、廊下やお庭にも椅子を配置し、いつでも寛げるように配慮をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんど全てのものをご自宅からお持ちいただくようにしご本人の好きな空間作りを行うとともに、写真や一緒に作成した小物等を飾り落ち着く空間作りを行っている。	使い慣れた椅子や家具、趣味のゴルフのトロフィー、愛読書などが家族の協力で自由に持ち込まれている。庭から摘みとった季節の花や家族の写真、切り絵が飾られ落ち着いた雰囲気が感じられる。車いすがスムーズに入室できるように広いドアが設置されている。また、部屋の前には大きな名前や写真を貼り入室の混乱防止に対応している。居室内の掃除はADLに応じて入居者自身が行っているが、エアコンの温度調整や換気による湿度管理、防臭対応などは職員が支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯、お部屋整理、庭の手入れ等すべてをその方のADLを考慮し行っている。		